

クラス集団の中で生徒を育てるための……

本一介イムを成功させる 3ポイント

1 HRの位置付けを決定する

point

生徒が他者を知る 場を作る

ホームルーム(HR)活動は、教科指導以上に学校の裁量に委ねられている部分が大きく、その分、高校によって活動内容、進め方にかかなりの幅がある。逆に言えば、マニュアルのようなものがないだけに、何をどう指導すべきか、苦勞する分野でもある。しかも、最近の生徒にはHRの基本である集団活動を苦手とする者が少なくなく、クラス全体での活動がスムーズに進まないケースも見受けられる。そうした状況の中で、生徒に自分を見つめさせ、クラスという場を通じて社会性を身に付けさせるためには、HRをどんな内容でどう進めるべきかを考える。

HRにはSHR、LHRの二つがあるが、その実施状況は学校によって様々である。しかし、HRが担任とクラスの間で接する貴重な時間であることには変わりない。その目的は次のようなものと言えそうだ。

道徳教育、人間教育
クラスの団結を図る

教師と生徒のコミュニケーション、信頼関係の構築
将来を考えさせる(主に進路学習)

生徒の生活母体であるクラスのHRを充実したものにすることで、生徒一人ひとりが居場所を発見し、安定した生活を送ることができるようになりたい。また、クラス(社会集団)は個の集合体であり、クラスの成長が個の成長に、また個の成長がクラスの成長につながるようなHRが望ましい。

道徳教育、人間教育と言っても、一般論として「これをやればいい」というものはなく、それだけが独立して存在することもない。学校ならではの取り組み(進路学習、学校行事の事前学習、レクリエーションなど)を通して学んでいくことになる。それだけに具体的な取り組みとして、何をどう実施するかが重要なポイントになる。

例えば、修学旅行の事前学習の一環として、HRでスケジュール、費用などを生徒が自分たちで設定する。その話し合いや意見のぶつかり合いを通じて、生徒は自主性、集団性、責任感、プランニングする力などを身に付けて

いく。したがって、事前学習の結果はもちろん重要だが、そこに至るプロセス、生徒がいろいろな力を身に付けていく過程を大切にしようにしたい。

最近の生徒は集団の中の活動が概して得意ではない。大勢の中で自分の意見が十分に言えない、他者と一緒にうまく活動できないといった生徒も少なくない。そこでHR活動に当たって最初からクラスを小人数のグループに分けるなど、自由に発言したり、のびのび活動できる工夫も時には必要になる。

クラスの団結力を高めることは、「このクラスにはいろんな考えの友達がいる」という、異なる価値観の存在を知り、それを受け入れることから始まる。お互いの違いを知った上で、クラスメイトをかがげない存在であると尊重することが、団結の礎となるだろう。

最近、生徒の人間関係の幅が狭くなり、クラスで付き合う相手が固定化しがちな生徒も少なくないと言った。生徒がクラスメイト一人ひとりの人間性を理解することのないまま、教師がクラスの団結を求めたとしても、それは瞬間的なまとまりしか実現できないだろう。HRを通して、生徒が人間関係を広げていくような、生徒一人ひとりが自分をアピールできるような仕掛けが担任に求められる。このような意

味で、グループ活動をHRに取り入れていく意味はあるだろう。

担任の語り掛けで 求心力を高める

生徒にとって、担任は高校の中で最も身近で、模範としやすい存在の大人である。自分の生き方について考え始めた生徒は、担任の姿から自分の将来を考える上でのヒントを探ろうとするものだ。だが、生徒は担任を前に自分の考えを伝えたり、悩みを打ち明けたりするのが上手ではない。そこで、教師の側から、HRを通して生徒が話をしやすい雰囲気を作ろうとすることが求められる。

SHRは担任とクラスの生徒の貴重なコミュニケーションの場である。1日のスタートに教師が生徒の成長を促し、見守っていく姿勢を伝えるような話をすれば、生徒は担任との強固な人間関係を築き、担任の求心力を自然と感じていくだろう。生徒が教師に話をしやすい雰囲気を作るには、まず教師から生徒への語り掛けが必要だ。また、この時間がないと教師と生徒は授業以外は顔を合わせない。時間が短く、しかも連絡事項に多くの時間を取られがちだが、朝一番の教師と生徒と

の出会い、家庭という私的な空間から学校という公的な空間に移行する大切な節目であり、その折り返しを付ける契機としても重要な役割がある。

LHRの場合は多くの高校が年間計画を立てて活動しているが、SHRもある程度の年間の見通しを持った活動が望ましい。生徒の将来観を育成するには系統立った指導が求められるが、SHRでどんな内容の話をするか、進路学習の進み具合やLHRのテーマなどとの関連も考慮して、話の材料を考えるようにする。進路学習の具体的な取り組みはLHRで行い、その意識付け、重要性の理解についてはSHRを利用して、日常的に語り掛ければ、進路学習の効果はより高められるだろう。

LHRにしろSHRにしろ、どんな内容の活動をどう進めていくかについては、ある程度学年団で意思の統一ができていくことが望ましい。それには教師間の認識のズレ、温度差をなるべくなくすよう、学年会や担任会などでHRの打ち合わせや準備をすることも必要だろう。HR検討会やHR運営委員会などを設けて検討する方法もある。HRの活動は教師からの一方的な指示に終始せず、生徒からのフィードバックの場を設けると、さらに効果的な活動が期待できる。HRの時間に生徒

に感想を求めてもよいし、大勢の前で生徒が話しづらいなら個人面談のときや、生徒と廊下ですれ違ったときに聞くのもよい。また、感想ノートを作ったり、生徒が自由に書き込めるようにしたり、SHRで日直が日誌の一部に記録してもよいだろう。その中から興味深い感想をLHRでの討議へと発展させたり、クラス通信に取り上げていく冒頭に挙げた「HRの目的」はその性格上、短期間で達成できるものではない。即効性を期待せず、明日につながる広がりのある活動にした方が、遠回りのようではあるが、結局はその目的に近づくことができる。また、教師は結論を断定せず、生徒自身が考え、模索するような雰囲気を作ってやれば、より生徒の成長が促される。

なお、HR関係の資料は、活動終了後も整理・保存して申し送り事項としてファイルしておけば、自分自身はもちろん、他の教師も次年度以降に活用することができよう。

クラス集団の中で成長させる

人間関係を広げさせる仕掛けを
話をしやすい雰囲気作りを

SHRで日常的な進路指導を
学年団で活動内容の意思統一を

即効性より明日につながる活動を

2

point

SHRの取り組み例

生徒の考えを 深める話を

SHRは連絡事項の伝達に終わりがちなのが現状のようだ。しかし、日常的に生徒の意欲を高められるような仕掛けに取り組んでみたい。実際に高校で行われている取り組み例として、担任からの話

生徒のスピーチ

読書

自習、小テスト

が挙げられよう。

の担任からの話は、多くの教師が実践しているようだ。話す内容は大きく分けて

- ・ 社会規範に関するもの
 - ・ 自己を見つめるきつかけとなるもの
 - ・ 他者との人間関係を考えさせるもの
 - ・ 社会を見る目を養うもの
- などがある。具体的な内容としては、「最近話題になっているニュースを中心に世の中の動きについて話すことが多い。生徒が考えておくべき話題を提供した

というのは案外難しいので、自分を見つめるよい機会になるかも知れない。

の読書は、1冊の本を毎日少しずつ読み継いで、何日、何十日かけて読み終える。最後に感想文や本の紹介文などを書かせて、それを小論文指導につなげている高校もある。朝のSHRの読書の効果として、本を読むこと自体の効用はもちろん、朝の慌ただしい時間に生徒は静かに活字に向かうことで心が落ち着き、1時限目の授業にすんなり入っていきけるという利点も見逃せない。また、新聞の社説やコラムなど、その時間内で読み終えることができるような短い文章を読ませる方法もある。

の自習、小テストを実施している高校も少なくない。わずかな時間でも毎日の積み重ねによってもたらされるものは決して小さくない。また、朝登校したばかりの心と体の状態を、これから始まる授業に向けて切り替えさせる効果もある。

以上がSHRの取り組み例だが、通常行われている連絡事項についても、生徒の自主性を引き出すために、伝達を担任ではなく、生徒にさせる方法もある。もちろん、重要な連絡事項は担任が行うが、その他の事項についてはHR委員に司会をさせ、図書委員、

い」「時事問題などのタイムリーな話と、それに対する自分の考えを話す」「自分自身の生活の中で感動したこと（読書や映画も含めて）などを話題にし、生徒の視野を広げるようにしている」

「自分の学生時代などの経験に基づく話をする」「その学年・時期の生徒の状況に合った本を紹介する」「クラスの状況を踏まえて話す」などがあるようだ。

例えば「クラスの状況を踏まえて話す」という場合は、クラス全体の学習に対する意欲が低下していると感じた際に、誠実さを持って学習に取り組むよう訴えたり、生徒の間に受験に対する不安・心配が広がってきたら、合格体験記の中から話をして不安を取り除く、などが考えられる。

何を話すかについては、毎日のことなのでテーマ探しに苦労があるようだ。新聞、テレビ、雑誌、本からの情報収集の他、インターネットのホームページから、これはと思うものをプリントアウトしておく方法もある。また、「メッセージ・ブック」のようなメモ帳を

保健委員などに報告をさせるようにする。そうやってSHR自体を生徒に運営させるのも、生徒主体の取り組みの一つである。

また、SHRで何かに取り組むときは、学年団としてのまとまりもある程度必要だろう。あるクラスでは教師からの連絡事項のみ、別のクラスでは読書というように、取り組みのないクラスとあるクラスに分かれると、学年としてうまく機能しないこともある。連絡事項のみのクラスはSHRが早く終わってしまったため、生徒が廊下で騒いで、他のクラスの妨げにもなりかねない。学年団で合意ができていれば、すんなり取り組みこともできる。その場合、Aのクラスは読書、Bのクラスは生徒のスピーチ、と取り組みの内容に違いがあっても構わない。

要は、朝の貴重な時間を有効に活用しようという学年の意思統一があれば、後は担任の裁量に委ねられる部分であるので、充実した内容を工夫したい。

意欲を高める話を

他者の考えを知る場

自己を見つめる場

読書で心を落ち着かせる

自習で小さな積み重ね

SHRを生徒に運営させる

作り、「これは後で使えそうだ」という内容をメモしておけばネタの蓄積ができる。

こうしたニュースなどについて話をするときは、その内容をできるだけ噛み砕いて生徒に分かるように話すことが必要だ。特に低学年生の場合、それらのニュースを理解するための知識をどれくらい持っているかは生徒によって大きく異なるからだ。また、単なる情報の伝達に終わらせないためには、自分の授業と絡めて話をするのもよいだろう。例えば化学の教師なら「化学の立場から見た公害問題」「化学的視点から見たサリン事件」というように持つていけば、より深く生徒の心に届く内容になるだろう。

ただし、朝のSHRの場合、あまり重い話だと生徒は付いてこなくなる。生徒の様子を見ながら、生徒のこれから1日の意欲が高まるような話、授業を通して何かを考えてみたくなるような話をした。

また、以前に話したことのある話と同じ内容の話をするとき、例えば「服装を整えなさい」という話でも、いろいろな例を出して毎日同じ言葉にならないような配慮も必要だ。

話の中で生徒を褒めることも心掛けたい。「朝早く来て、教室で勉強する人

3

point

LHRの取り組み例

より生徒の実態を 考慮して担任が工夫を

学部・学科研究など、学年全体のLHRのテーマが決まっているときも、その具体的手法はクラスによって工夫の余地がある。生徒個々の活動だけでなく、グループ学習などを取り入れ、協調性を高めるような仕掛けも可能だろう。その際、グループのメンバー全員に責任ある役割を与えたり、研究成果を発表させ、さらに質疑応答の時間を作るなどの工夫もできる。

逆に学年全体で動くもの、例えば文理選択や科目選択に向けての説明などのときは、LHRの時間に学年集会を実施するとよい場合もある。クラスによって取り組みの度合いに差が出たり、説明に食い違いが出たりするのを避けることができ、効率的かつ効果的だ。

学年で決まっていないLHRの時間があった場合、一般的にはレクリエーションにする場合と、討論会や担任による話を含めた広い意味での勉強会にする場合があるようだ。レクリエーションは、一つのことだけに皆で取り組むこ

が多くありません。他のクラスにもよい影響を与えています」「103日間、欠席・遅刻・早退が1人もいません」など、ちょっとしたことで褒めるようにすると、生徒はやる気が起き、前向きな気持ちで学校生活や学習に取り組む契機になる。

担任の話を「他者の考えを聞く」という観点で発展させ、有名人や文化人などの自叙伝などを読ませる方法もある。事後に感想文を書かせるのもよいだろう。

毎日の積み重ねを 実感できる時間に

の生徒によるスピーチは、生徒が自分の頭で考え、テーマを構成し、表現する練習になるばかりでなく、他の生徒の考えや、表現の仕方に触れるよい機会ともなる。クラスの中には、高い意識を持っている生徒、表現力の豊かな生徒が何人かはいるものである。そういう生徒のスピーチを聞いて、「自分も頑張らなければ」と刺激になることがある。

スピーチのテーマは特に設定する必要はない。「最近のニュースで感じたこと」「学校」「友達」、あるいは「自己紹介」でも構わない。自分を紹介すると

とてクラスの団結が高まるという点が期待できる。勉強会には、文字通りの学習の他、ディベート、読書会、教師の話、生徒のスピーチなどがある。レクリエーションを学年の最初の段階で行い、クラスの団結ができた時期に討論会などをさせる方法もある。

空いたLHRを「素朴な疑問」という名の時間に行っている例もある。生徒に質問用紙を配って約10分で質問を書かせ、すぐ回収する。質問内容は何でもよい。入試に関すること、学習方法など自由に書かせる。回収した質問に対し、教師がその場で次々と即答していく。これにより、教師に対する信頼感が増す、という効果もあるようだ。記名・無記名は自由なので、生徒にとって進路に関して聞きづらい質問、聞く時期を逸してしまった質問をするのに適した方法だろう。中にはクラスの抱えている課題が見つかり、この場を使って全員で解決できることもある。

行事や生徒の状況を踏まえて指導

学年全体で動くものは学年集会に

予定のないLHRこそ工夫を